

創造的活動を通して地域賦活を目指す学際的研究

松井恵麻（大阪市立大学大学院 文学研究科 後期博士課程・3年）

キーワード：地域づくり・地場産業・内発的発展・アートイベント・アートマネジメント

概要

- 本研究では創造的活動がいかに関与するか地域の課題を解決するか検討し、新しい地域再生のあり方を提起する。
- なかでも地域の産業・文化の課題に対してアートがいかに関与することができるか、地域の実態にそくして解明することを目的とする。
- 研究の手法として事例研究を行うとともに、実際にアートイベント運営への参加やアートイベントの企画などに関わる。
- その結果アートが地域の産業と文化に賦活をもたらす働きをもつ一方で、継続的な関係構築に課題を抱えていることが明らかになった。

背景・目的：

- 2000年代以降にみられる特定の地域を拠点とした多くのアートイベントでは、現代アートなど創造的活動が「地域づくり」に積極的に取り入れられている。
- 創造的活動を利用した地域づくりの問題点として観光客の増加やそれに伴う経済効果など一時的な効果は立証されているものの、持続的な地域づくりに結びつく過程は明らかにされていないことが挙げられる。
- 持続的で内発的な地域づくりを行うためには、地元の**産業と文化**を基盤にした振興が求められている（参考文献①）。
- **本研究は創造的活動が地域の産業と文化にいかに関与させるのか地域の実態にそくして解明することを目的とする。**

研究手法・対象地域：

- ① **事例調査**…香川県小豆島・愛知県佐久島など
- ② **実践**…香川県小豆島・大阪市住之江区北加賀屋地域

事例調査によってアートイベントと地域の産業・文化の関係性を解明したうえで、実際に実践に参加しアートと地域のギャップを確認した。

考察 結論

- アートをはじめとする創造的活動は地域の産業に対して新しい資源を創出する働きをもつと同時に、地域文化の維持・保存に関わる働きも合わせもつ。それゆえ地域の産業と文化の両方に対して賦活をもたらすと考えられる。
- ただしアーティストらが地域社会のなかで活動をすすめる初期の段階では、地域住民との対話を通して創作活動内容について認識の相違を確認しあう必要があるが、両者の関係性が未構築である場合、地域住民とアート関係者の意見調整を行う「コーディネーター」の介入が求められている。

各事例調査とアートの実践から分かったこと（一部）：

